



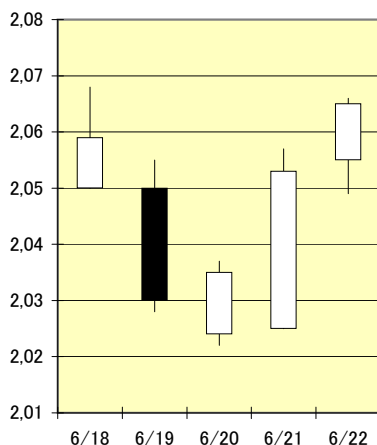
ブラジル三菱東京UFJ銀行 DAILY MARKET REPORT

1. Market Rate

			6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日	Net Chg
Forex	USD/REAL	Spot	2,0590	2,0300	2,0350	2,0530	2,0650	+0,0120
	USD/YEN	Spot	79,10	79,00	79,52	80,26	80,42	+0,17
	EURO/USD	Spot	1,2577	1,2687	1,2705	1,2549	1,2572	+0,0023
	REAL/YEN	Spot	38,42	38,92	39,07	39,09	38,95	-0,15
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,88	1,90	1,92	1,88	1,81	-0,07
		1Year(p.a.)	2,30	2,34	2,41	2,34	2,26	-0,08
	Real Interest	6MTH(p.a.)	7,74	7,73	7,75	7,73	7,73	u,c,
		1Year(p.a.)	7,70	7,69	7,74	7,70	7,71	+0,01
Stock	Bovespa		56.195,21	57.195,49	57.166,55	55.505,17	55.439,50	-65,67
Bond	EMBI+(bp)		210,00	209,00	206,00	213,00	213,00	u,c,
	Global 40		129,500	129,500	129,450	129,300	129,500	+0,2000

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

直近5営業日U\$/R\$推移



〔来週の予想相場レンジ〕

2,00～2,10

〔来週の為替市場注目点〕

週末のギリシャ再選挙は救済賛成派が勝利したことからマーケットに与えたインパクトは予想以上に小さいものとなった。今週発表された経済指標で欧州のみならず米国の景気も鈍化傾向にあることが確認されており、毎週下方修正されている伯GDP成長率予想と相俟ってレアルは暫く弱含みの展開が予想される。今週のFOMCではQE3の導入が見送られ、一部市場関係者からは失望のレアル売りも散見された。来週は週末のEU首脳会議まで特段大きなイベントは予定されておらず、暫くは方向感の定まらない展開が予想されるが、欧州発の材料による突発的な動きには注意が必要であろう。

- ・ 伯インフレ指数: IPC-S (25日)、IGP-M (28日)、
- ・ 伯FIPE週次消費者物価指数 (26日)、週次貿易収支 (25日)、
- ・ 伯純債務対GDP比、基礎的財政収支 (28日)
- ・ 米新築住宅販売 (25日)、消費者信頼感指数 (26日)、耐久財受注 (27日)、
- ・ 米GDP速報(1Q)(28日)、個人所得、シカゴPM景況指数 (29日)、
- ・ 欧: EU首脳会議 (28～29日)

2. 市況、トピックス (As of jun-22)

【ギリシャ再選挙、スペインの銀行問題、米FOMCなどで上下に振られるも、週を通じて見れば行って来いの展開】

今週の為替相場はU\$1=R\$2.0500で寄り付いた。週末17日に世界中が注目したギリシャの再選挙が実施され、僅差ながら救済賛成派が勝利した。ギリシャのユーロ圏離脱懸念は後退したものの、市場の焦点がギリシャからスペインにシフトする中、スペインの10年国債利回りが維持不可能とされる7%台に乗せてきたことを嫌気してユーロドルが下落した流れにつれて、レアルは週初から売りが先行した。また中銀による週次エコノミスト調査の中で2012年度のブラジルGDP成長率見通し及び2012年末の政策金利予想が前週比で下方修正されたこともレアル売りを誘い、早々にレアルの週間安値となるU\$1=R\$2.0680を付けた。しかし翌19日から2日間の日程で始まった米FOMCでQE3を含む追加緩和対策が発表されるとの思惑が強まると、一転、過剰流動性のブラジル国内への流入を先取りしたレアル買いが強まり、一気に2.02台前半まで反発した。翌20日は注目のFOMCの結果が発表され、6月末に期限が切れる“ツイストオペ”の年末までの延期が発表されたが、QE3など一段踏み込んだ追加緩和を期待していた一部市場参加者からは失望の声が聞かれ、直後はレアル売りが優勢となった。その後は揉み合いとなったが、翌21日発表された伯インフレ指標が市場予想比低めの結果となると追加利下げ観測が高まり、レアルは再びじりじりと売られる展開となった。更に、その後に発表された米指標が弱めの結果となると、市場では“質への逃避”が強まり、株・コモディティ・エマージング通貨全般が大きく売られ、レアルも再び2.06台まで値を下げた。

本日の為替相場はU\$1=R\$2.0550でオープン。昨日に大きく下げた反動もあり、朝方はややレアル買い優勢で推移。欧州時間の夕刻にドイツ、イタリア、フランス、スペインの4首脳による会合が予定されており、欧州危機打開に向けて協働案が発表されるとの期待もレアル買いを後押しし、10時過ぎには本日のレアル高値となる2.0490を付けた。その後は週末を控えて徐々に市場の流動性が薄くなる中、ブラジル国内企業からの大口のドル買いが噂され、じりじりと値を下げる展開となった。午後にかけては2.0600を挟んで方向感のない揉み合いが続いたが、引け間際に本日のレアル安値となるU\$1=R\$2.0660を付け、結局U\$1=R\$2.0650で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したもので、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。なお、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮ください。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。